

いわゆる結果の状態を表すテイル・テアルの 日本語教科書での扱いについて

北村よう

0. はじめに

初級で学習する文法項目の中で、動詞の自他は学習者にとって難しいもののひとつである。自他の違いは、「窓が開いている」「窓が開けてある」のようなベアを使って、いわゆる結果の状態の表現を教える際に示されることも多いだろう。本稿では、そのような自他の教え方、テイル・テアルの導入のしかたが妥当かどうかを当該文型で使われている動詞の意味と構文を調べることによって明らかにする。

なお、本稿で扱うのは、いわゆる結果の状態のテイルとテアルであり、動作の進行を表すテイルや準備の意味のテアルは扱わない。

1. 教科書における説明

まず、教科書や教師用指導書などでテイル・テアルの違いがどのように説明されているか見てみよう。初級教科書として、主として『みんなの日本語初級』（以下では『みんなの日本語』とする）と『日本語初級大地』（以下では『大地』とする）を取り上げる。はじめに、『みんなの日本語』から見ていこう。

『みんなの日本語』では、第29課でテイル、第30課でテアルが導入される。『みんなの日本語初級Ⅱ 教え方の手引き』では、テアルについて、次のように説明されている¹⁾。

物の状態を言い表す文型は第29課で学習した「～ています」のほかに、この課の文型「～てあります」がある。「～ています」には物自体の変化を表す自動詞が使われ、物自体の変化の結果としての現在の様子を見たままに言い表す。それに対し、「～てあります」には人の動作を示す他動詞が使われ、人が何らかの意図や目的を持って行った行為の結果としての物の現在の状態を表す。

つまり、自動詞＋テイルと他動詞＋テアルを対比させ、テアルには意図や目的が関わってい

ることを示している。『みんなの日本語』の学習者向けの『翻訳・文法説明』では、テアルの意味として「意図」「目的」「理由」などは強調されてはいないが、最後に「開いている」と「開けてある」の違いについての説明がある。

また、『大地』では第28課でテイルが、第31課でテアルが導入される。『教師用ガイド』第31課の文型説明には、次のような説明と例がある²⁾。

『Vてあります』は、何かの目的や理由があって、人が意志を持って今の状態を作ったことを表します。⇒第28課

A：あ、窓が開いていますよ。閉めましょうか。

B：今から掃除するので、開けてあるんですよ。

『教師用ガイド』だけでなく、学習者用の『文型説明と翻訳』でも同じ例が提示されている。つまり、「あく」「あける」という自他のペアを用いてテイルとテアルを説明しているのである。

以上のように、「テアル」の説明には必ずといっていいほど登場する「開けてある」という表現であるが、初級教科書の例文や練習などで実際に出てくることは少ない³⁾。同様に、対応する自動詞を持つ「閉めてある」「つけてある」なども～テアルの練習にはあまり使われていない。『大地』でも、解説にあるにもかかわらず、本冊に「開けてある」は出てこない。

では、どのような動詞がテイル、テアルそれぞれの練習で使われているのだろうか。具体例を見る前に、2. で本稿での動詞分類を示しておく。

2. テイル・テアルと結びつく動詞の分類

まず、意味の面から見てみよう。

いわゆる結果の状態のテイルと結びつくのは一般に変化動詞⁴⁾である。変化動詞はさらに、「入る」「付く」などの位置変化動詞と「あく」「壊れる」などの状態変化動詞に分けられる⁵⁾。本稿ではこれに「座る」「立つ」などの姿勢変化動詞⁶⁾を加え、三分類とする。

位置変化動詞は、人の意志的な移動にも使われる（「教室に入る」など）が、日本語では同じ動詞がモノの移動にも使われる⁷⁾。モノの移動の場合（「かばんに本が入っている」など）は無意志的である。状態変化動詞は、無意志的である。姿勢変化動詞は人の姿勢変化を表す場合は意志的であるが、「立つ・建つ」のように人とモノ、両方に使われる動詞もある。「ビルが建つ」はビルが意志的にタツわけではないが、日本語では人がタツのと同じような姿勢の変化としてとらえていると考えられる。

テアルと結びついて状態を表す他動詞には、「置く」「飾る」などの配置動詞⁸⁾と「書く」「彫る」などの作成動詞⁹⁾がある。配置動詞は、人がモノを動かしてその位置を変えろという意味を持つ。作成動詞の場合、ヲ格で表される名詞はその動作の前には存在しないが、動作の結果出現する。たとえば、「書く」前には書かれた字は存在しないが、書いた結果、字が出現

する。配置動詞、作成動詞ともに意志的である。

次に、これらの動詞の自他対応を見る。位置変化動詞に対応する他動詞は配置動詞である。「入る」と「入れる」、「付く」と「付ける」などの対応がある。ただし、配置動詞の中には、「置く」「飾る」のように対応する自動詞を持たないものもある。

状態変化動詞は、「あく」に対する「あける」、「消える」に対する「消す」のように対応する他動詞¹⁰⁾を持つ。自他の対応の典型的な例と言っていいだろう。

姿勢変化動詞は、「起きる」「起こす」のように自他対応を持つものと、「座る」のように対応する他動詞を持たないもの、「立つ／建つ」「立てる／建てる」のようにモノの場合のみ対応しているものがある¹¹⁾。

最後に、動詞がとる項を見てみよう。自動詞がガ格をとり、他動詞がガ格とヲ格をとることは改めて言う必要はないが、それ以外にテイル・テアルの文にはどのような項が現れるだろうか。

ここで注目したいのは、場所のニ格である。位置変化動詞と配置動詞は「冷蔵庫に野菜が入っている」「冷蔵庫に野菜を入れる」のように、ニ格をとる。また、作成動詞も、テアル文で使われた場合、ニ格をとる。姿勢変化動詞も、「イスに座る」「廊下に立つ」のようにニ格をとることがあるが、ニ格をとらずに姿勢を変える動作のみを示し、その場所には特に言及しないこともある。

3. 教科書の例

では、実際にテイルとテアルを扱っている課に出てくる動詞を見てみよう。

『みんなの日本語』では、第29課で自動詞＋テイルが出てくる。その課に出てくる動詞は、以下の通りである。

ドア／窓／かばん／銀行／が 開く
枝が 折れる
かぎが かかる
テレビ／エアコン／電気が 消える
ファクス／エレベーターが 故障する
洗濯機／掃除機／パンチが こわれる
窓／スーパーが 閉まる
ビルが 倒れる
電気／エアコンが つく
クリーニングの紙／ポケットが 付く
コーヒーが 冷たくなる
車が とまる
時計が とまる

北村よう

本／お金／切手が 入る
ボタンが はずれる
袋／封筒が 破れる
コップが 汚れる
ガラス／皿が 割れる

『大地』では第28課でテイルが導入される。そこで使われている動詞は次のようなものである。

星が 出る
電気／エアコンが つく
自転車／木／花瓶が 倒れる
自転車／橋が こわれる
店が 閉まる
シャツ／袋が 破れる
コップが 割れる
自転車が 止まる
電車／水道／ガスが 止まる
虫が 入る
かぎが かかる
引き出しが 開く
金庫が なくなる
床／毛布が ぬれる
花瓶／書類／ガラスが 落ちる
木が 折れる
自転車が パンクする
穴が 開く
皿が 汚れる

これらの動詞は、多くが状態変化動詞であることがわかる。状態変化でないのは、姿勢変化の「たおれる¹²⁾」と位置変化の「入る」「はずれる」「付く」「(車が) とまる」「出る」「落ちる」である¹³⁾。「(なべに) 穴が開く」は、「(なべに) 穴を開ける」に対応しているが、「穴」は開ける前には存在しないので、「開ける」はここでは作成動詞と考えられる。そうすると、「開く」は作成動詞に対応する自動詞となろう¹⁴⁾。また、「故障する」「パンクする」と「冷たくなる」をのぞくと、すべて対応する他動詞を持っている。

次に、『みんなの日本語』第30課の～テアルに使われている動詞を見てみる。

はさみ／セロテープを 入れる
木を 植える
花瓶／メモ／ゴミ箱／箱／ベッドを 置く
絵／予定／名前を かく（書く・描く）
絵／鏡／カレンダーを かける
人形を 飾る
セロテープ／ホッチキス／パスポートを しまう
窓を 閉める
おさら／本を 並べる
地図／ポスター／写真を はる

これらの動詞の特徴は、「窓を閉める」「かく」以外は配置動詞であり、場所の二格をとることである。自他の対応を見ると、「入れる」「かける」「並べる」は「入る」「かかる」「並ぶ」という対応する自動詞を持っているが、「植える」に対応する「植わる」は頻度が低く、「置く」「かく」「飾る」「しまう」「はる」は対応する自動詞を持たない。

また、「かく（書く・描く）」は作成動詞である。「書く」は「手紙／レポートを書く」などで使われるが、第30課では、次のように、二格をともなった文が使われている。

壁に花や動物の絵がかいてあるんです。……例文
カレンダーにこんげつのよていがかいてあります。……練習 A
本に名前が書いてあります。……練習 B （下線筆者）

『みんなの日本語』の第29課と第30課で自動詞＋テイル，他動詞＋テアルのペアが出てくるのは、「はいる」「いれる」のペアのみと言ってもよいだろう。「しまる」「しめる」のペアもあることはあるが、「閉めてある」は、メインの練習が終わったあとの「問題」ページに

窓が閉めて（ いませんでした，ありませんでした，おきませんでした ）よ。出かけるときは，閉めてください。

という選択問題として出てくるのみである¹⁵⁾。このように，自他動詞のペアが教科書に出てこない理由としては，学習者の混乱をさけるために意図的にペアで出さなかったということもあろうが，もともとテイルとテアルでは，結びつく動詞の意味に違いがあるためだということも考えられないだろうか。

たとえば、『大地』でも，～テアルの練習では，図1のようなイラストが使われている。この問題の解答例は以下の通りである。

3-1. ここは日本の旅館です。
金庫に使い方が書いてあります。

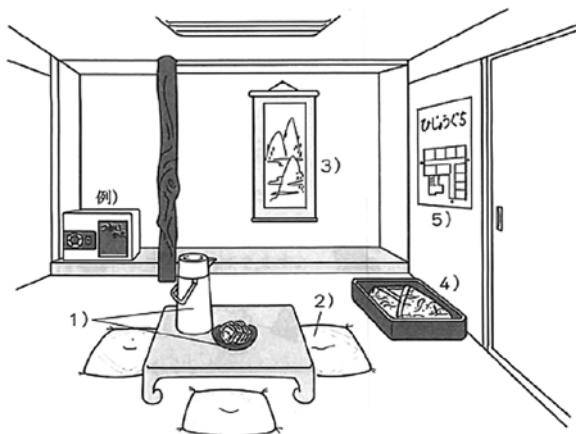


図 1

- 1) テーブルの上にポットとお菓子が置いてあります。
- 2) テーブルの周りに座布団が並べてあります。
- 3) 壁に山の絵が掛けてあります。
- 4) 箱に浴衣が入れてあります。
- 5) 壁に非常口の案内が張ってあります。 (下線筆者)

下線で示したように、すべて場所のニ格をともなっている。テイルの練習で主として状態変化動詞が使われているのとは大きな違いがある。

上の解答例の語順は、「場所ニ モノガ Vテアル」であり、場所が文頭に来ている。これらは広義の存在文とみなすことができる。

テアルが存在文に使われることは、すでに多くの文献で指摘されている。たとえば、益岡 (1987) は、～テアルを A (受動型)、B (能動型) の二つのタイプに大きく分け、さらに A1, A2, B1, B2 の 4 類型に分けているが、その中の A1 型を「行為の結果もたらされる、対象の或る場所での存在を描写するタイプの表現」と定義している (p. 221)。また、張 (1991)、郑汀／冯素梅 (2010)、于 (2007) など、存在文の日中対照を行った研究では、中国語の存在文に対応する日本語表現のひとつとして、テアルが取り上げられている。

テイルとテアルの違いは、1. で述べたように、意図性の有無が第一にあげられることが多いが、テアルが存在文で使われることも意識すべきではないだろうか。

存在文では場所の助詞としてデではなく、ニが使われる。しかし、学習者は場所と結びつく助詞としてデを選び、

*教科書で名前を書きました。

のような誤用をすることが多い。テアルの導入の際には、単に～ガ～テアルと教えるのではなく、～ニ～ガ～テアルの文型として教えることも必要だろう。

次に、意図性について見てみよう。中俣（2011）のコーパスによる調査では、『てある』の50%が『書いてある』だという。「書いてある」については、すでに寺村（1984）でも、次のように指摘されている（p. 151）。

次のような「記述」を表す動詞の～テアル形は、日常非常に多く見られるが、この場合は、意図的の処置という感じはほとんどないということである。
(例省略)

中俣（2011）の調査で次に多いのは、「置く」だが、これは対応する自動詞を持たないものである。原沢（1998）は、次のように述べている。

テアルとテイルが対立する場合、テアルは変化が意志的行為によるものであることを認識するが、テイルはその原因が何であれ変化の状態をありのままに表現する。これに対して、対応するテイルを有しないテアルでは、上記のテイルとテアルの用法を包含する形で、行為による変化の状態を描写するのである。

つまり、「置いてある」「張ってある」などでは、意図性がある場合もない場合もあるということである。頻度から言えば、テアルは対応する自動詞を持たない動詞が大半である。対応する自動詞を持つ「開けてある」をテアルの典型例とするのは学習者の誤解を招くのではないだろうか。

初級教科書の中には、文化外国語専門学校編『改訂版文化初級日本語』（凡人社）のように、結果の状態のテアルを文型として積極的に取り上げていないものもある。テイルとテアルを同等に扱うのではなく、まずはテイルを教え、テアルは個別に「書いてある」「置いてある」のような組み合わせで覚えさせるという方法も考えられる。

4. 位置変化動詞と配置動詞の対応

上で、テイルが主として状態変化動詞と結びつき、テアルが配置動詞・作成動詞と結びつくことを見た。テイルとテアルが対応しているのは、多くは自動詞の位置変化動詞と他動詞の配置動詞の場合である。『みんなの日本語』第29課、『大地』第28課で使われている位置変化動詞「入る」「はずれる」「付く」「(車が) 止まる」「出る」「落ちる」は、それぞれ「入れる」「はずす」「付ける」「止める」「出す」「落とす」という対応する他動詞を持つ。それに対して、『みんなの日本語』第30課、『大地』第31課で使われる配置動詞は対応する自動詞を持つものを持つ
第5号（2015）

たないものがある。対応する自動詞を持つのは、『みんなの日本語』『大地』ともに「入れる」「(絵を) かける」「並べる」である。そしてどちらの教科書でも「入れる」に対応する「入る」はテイルとともに使われている。つまり、「入っている」「入れてある」というペアが提出されているのである。「かかる」「かける」のペアについて見てみると、『みんなの日本語』において、「かかる」は「～に絵／カレンダーがかかる」という用法では出てこない。『大地』は、テイル・テアル学習後の第35課の「使いましょう」で「木の板がかかっている」という例が出てくる。「並べる」に対応する「並ぶ」に関しては、次のように使われている。

どうして大勢人が並んでいるんですか。(『みんなの日本語』第42課)

わたしは王様ですから、並ばなくてもいいです。(『大地』第17課)

いずれも「人が並ぶ」例である¹⁶⁾。「モノが並んでいる」はどちらの教科書でも扱われていない。自他の対応がある場合、他動詞+テアルよりも、自動詞+テイルをまず取り上げるべきではないだろうか。

「並ぶ」と同様、「入る」も日本語では人とモノ、どちらの移動にも使われるが、学習者の言語では人の移動とモノの移動(＝位置変化)では、違う語が当てられることがある。入る＝enterで覚えた学習者には、「かばんに本が入っている」などは、理解しにくいかもしれない。『みんなの日本語』では、第14課で「はいります[きっさてんに～]」が導入されるが、「入っている」が出てくる第29課には単語の説明がない。『大地』でも、第30課に「大きい箱ですね。何が入っているんですか。」という文が出てきているが、この課の語彙リストには「はいる」はない。ただし、第39課の「お酒が入っているようです」に対する訳語としては‘be contained’が載っている。英語では、人が入る場合と、人が物を移動させた結果、物が移動する場合とは違う概念となろう。中国語でも同様である¹⁷⁾。

さらには、実際には変化がなくても変化の結果の表現が使われることがある。「かばんにポケットが付いている」というのは、かばんを作ったあとでポケットを付けたわけではなく、はじめからあったのだろう¹⁸⁾。

日本語母語話者にとっては人が「入る」のも物が「入る」のも同じ「入る」であり、多義語ではないが、学習者にとっても同様とは限らない。また物が移動した結果「付く」のもはじめから「付いている」のも日本語母語話者にとっては同じ「付く」だが、学習者は後者の場合、移動の結果とはとらえず、単に「ある」ととらえることもある。

5. まとめと今後の課題

以上、テアルが必ずしも意図を伴わないこと、テイルとテアルでは結びつく動詞の意味分野に違いがあること、テアルは存在文で使われること、位置変化動詞と配置動詞の対応について見てきた。

本稿では主として『みんなの日本語』と『大地』を取り上げて分析したが、ほかの教科書や

中級以降での扱いも調べたい。また、テイル・テアルで使われる動詞のテイル・テアル以外の用法がどのように提出されているかを調べ、より学習者にとってわかりやすい提出順序を考えたい。

注

- 1) p. 55. 現在『みんなの日本語初級』は改訂版ができていないが、『教え方の手引き』は改訂版が出ていない。
- 2) p. 76.
- 3) 日本語教育教材開発委員会編『学ぼう！ 日本語 2』には練習の例として「窓が 開けて あります」が使われている。
- 4) 金田一（1950）では「瞬間動詞」に分類されている。
- 5) 工藤（1995）、影山（1996）、影山（2001）など参照。
- 6) 影山（1996）は「姿勢動詞」としているが、本稿では状態変化、位置変化に合わせ、「姿勢変化動詞」とする。
- 7) 主として人の移動を表す「行く」「来る」のような動詞もある。これらも一般にテイルがつくと移動の結果、到達点にいることをあらわすが、『みんなの日本語』『大地』では扱われていない。
- 8) 神永（2008）、益岡（1987）、益岡（2000）など。工藤（1995）の「とりつけ動詞」に当たる。
- 9) 影山（1996）、益岡（2000）など。
- 10) 工藤（1995）は「もようがえ動詞」と呼んでいる。
- 11) 人の場合は「立たせる」という使役形を使う。
- 12) ここでは「ビルが倒れる」という例なので、「姿勢変化動詞」と呼ぶのは適当ではないかもしれないが、「倒れる」は人についても使えるため、姿勢動詞に入れておく。姿勢変化動詞の中には「立つ（建つ）」のように、人にもモノにも使える動詞がある。英語の stand や lie も同様である。
- 13) 『みんなの日本語』旧版では第29課に「こむ」と「すく」が出ており、これらは対応する他動詞を持たないが、改訂版では第32課に移動した。
- 14) 作成動詞は一般に対応する自動詞を持たない他動詞であるが、ここでは例外的に対応していると考えられる。
- 15) ただし、『みんなの日本語』の『書いて覚える文型練習帳』では、
A：テレビがついていますよ。
B：ええ。ニュースを見ますから、つけてあるんです。
という自動詞＋テイルと他動詞＋テアルの違いを意識させる練習がある。この練習では、ほかに、「あいている⇔あけてある」「出ている⇔出してある」「入っている⇔入れてある」「ついている⇔つけてある」が使われている。
- 16) 「人が～テイル」を積極的に取り上げている教科書もある。できる日本語教材開発プロジェクト『できる日本語初級』（アルク）では、第15課で結果の状態のテイルが導入されるが、「人が倒れています。」「レストランの前に人が並んでいます。」「人が集まっています。」など、姿勢変化、位置変化の動詞が人について使われている例がある。
- 17) 王軼群（2009）には、日本語で移動表現が使われるが、中国語では移動表現とならない例が挙げられている（p.135）。
- 18) 國廣（1985）の言う「痕跡的認知」に当たる。

参考文献

- 于康（2007）「日本語の存在構文とその存在構文からみた動詞の意味と構文の意味とのかかわり」
広島大学国語国文学会編『国文学攷』第192・193合併号
- 王軼群（2009）『空間表現の日中対照研究』くろしお出版
- 影山太郎（1996）『動詞意味論——言語と認知の接点』くろしお出版
- 影山太郎（2001）『日英対照 動詞の意味と構文』大修館書店
- 神永正史（2008）「テアル構文の動詞構成—存在文との近さから—」『筑波日本語研究』13
- 金田一春彦（1950）「国語動詞の一分類」『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 國廣哲弥（1985）「認知と言語表現」『言語研究』88
- 張麟声（1991）「中日様態存在表現の対照研究」『月刊言語』20-7
- 鄭汀（2010）「存在表現における中国語の「着」構文と日本語の「てある」構文の対応について」
神田外語大学編『Scientific approaches to language』9
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 中俣尚己（2011）「コーパス・ドライブン・アプローチによる日本語教育文法研究——「てある」と「ておく」を例として——」森・庵編『日本語教育のための多様なアプローチ』ひつじ書房
- 長谷川ユリ（1997）「テアルの意味と用法」『大阪教育大学紀要 第Ⅰ部門』第46巻 第1号
- 原沢伊都夫（1998）「テアル形の意味—テイル形との関係において—」『日本語教育』98号
- 原沢伊都夫（2005）「テアルの意味分析—意図性の観点から—」『日本語文法』5巻1号
- 原沢伊都夫（2007）「テアル2形式（能動型と受動型）における話者の認識」『静岡大学国際交流センター紀要』1
- 益岡隆志（1987）『命題の文法—日本語文法序説』くろしお出版
- 益岡隆志（2000）「アスペクトをめぐる」『日本語文法の諸相』くろしお出版
- 郑汀／冯素梅（2010）静态存在句“V着”语义再考—兼与日语「Vている／Vである」比较《日语学习与研究》2010年第2期